

成長・貢献・感謝



つっじカップ 男子が優勝

つっじカップ杯バスケット大会を振り返る
元男子バスケット部監督
Y・Y先生

3月23日、24日の東村つっじカップに出場してきました。1回戦の中城中は、中頭地区大会で前評判も高く、厳しい試合になるだろうと予想して臨みました。しかし、ゲームは第1クォーターから羽地中のシュートが決まり、デフェンスも良い動きで相手にプレッシャーをかけ、パスカットからの速攻でつなぐなど良い動きで展開しました。

第2・第3クォーターもオフェンス、デフェンス、リバウンドも積極的に動き、リードを広げられた。

しかし、第4クォーターに入ると相手デフェンスも激しくなり、ターンオーバーされて連続失点、そして同点・逆転のシーソーゲームの展開であった。終了間際の攻防があり、50対47でなんとか逃げ切った。

2回戦は、新人戦で負けている東中戦。リベンジに燃えていました。第1クォーターからシーソーゲーム。羽地中がリードするも10点以上差をつけて突き放すことが出来なかったがついに第4クォーターで15点以上の差をつけて勝利をもち取りました。

羽地中学校
学校だより 2号
2019. 4. 5

翌日の決勝は何度も苦杯をなめている名護中戦。どれくらい食らいついていけるか、気持ちの持続が勝負となると予想した。

第1クォーターは激しいデフェンスで展開し、3点差で羽地中がリード。第2クォーターは名護中のシュートが決まり出す展開。

名護中にリードを許すものの、第3クォーターでは粘りに粘って、点差を縮める。そして、第4クォーターの残り1分ずついに逆転。さらに得点をつなげて59対55で優勝した。

今大会はオフェンスのミスが少なく、これまでの自滅パターンから一皮むけた感がある。特にKさんのリバウンド、リング下、ミドルレンジからのシュート率が高くなった。また、2年生トリオのSさん、Hさん、Mさんら



が安定したシュート力でゲームをコントロールでき、活躍できた。また、2日間、動ける体力もついていたようだ。

今後は、逆速攻を防ぐマンツーマンの確認、詰めるデフェンス、シュート率の向上、全員がゲームに出場できるチーム力の向上が課題である。最後の最後に優勝でき、ほっとしている。男子バスケット部をはじめ羽地中の全部員の今後の活躍に期待しています。

